

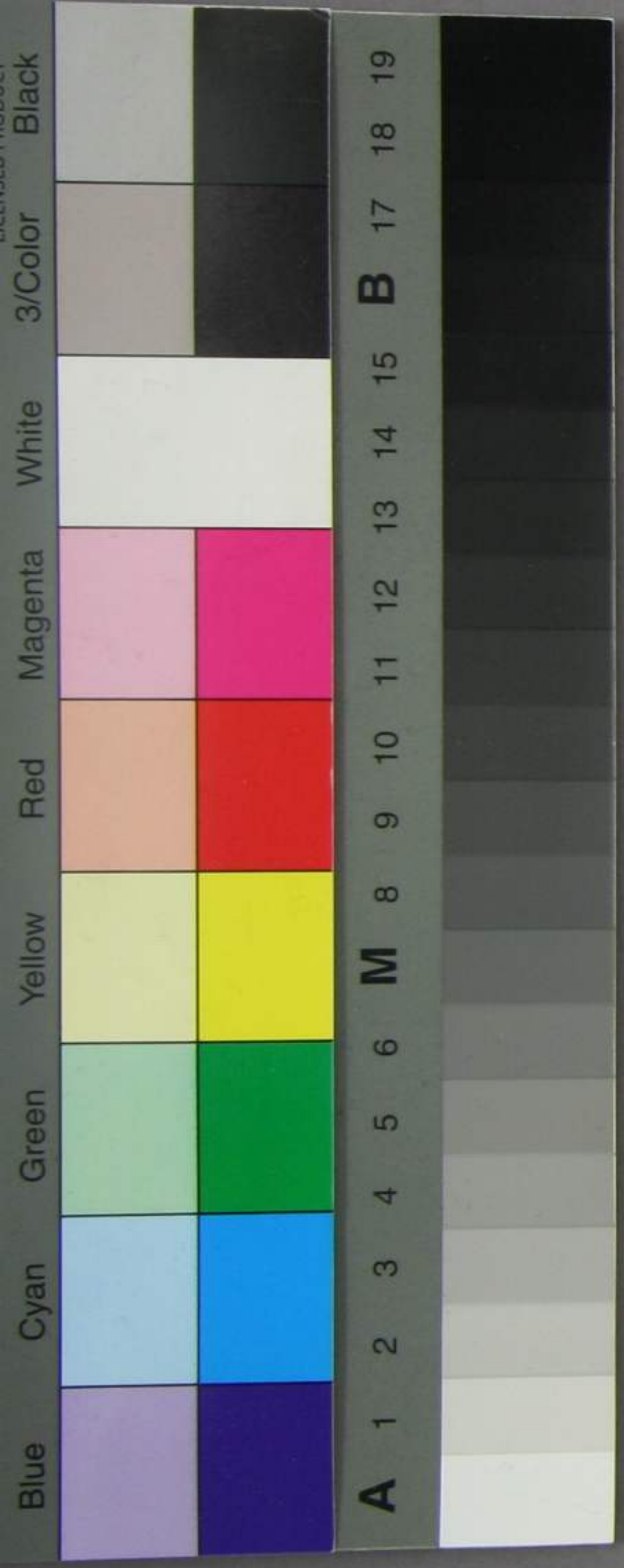
114
A3110
2



紅毛書
通貨
歴史
第二章

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

一千八百五十九年日本始メテ外國貿易ヲ開キ其以
來同國ノ事情ヲ記憶スルノ人當今爰ニ成立スル富裕
ハ凡テ何物ヲ問ハス如何ニ之ヲ少言スルモ幾クカ此
外國貿易ノ結果ナリト云テ新レキ演述ノ誤謬ナキヲ
駁論スル丁蓋シ難ルヘン
如何トナレハ當時全國ニ於テ儲積セシ富裕ハ甚タ僅
少ナリキ幾クカ金ヲ貯蔵スル者ハ僅々ノ大名及ヒ他
ノ數輩ニ止マレリ政府ハ其租稅米納ナルカ故ニ米穀
ヲ著シク貯蔵ス然ルニ人民ノ多數ハ非常ニ貧窮シテ
剩資ニ至テハ其何種ヲ問ハス殆ント之ヲ有スルモノ
ナリ當ニ富貴ヲ欲望シ若クハ其大願ヲ抱ク者ナキノ



ミニニ忙手口ヲ糊ルニ躑躅トメテシク日月ヲ経
過人其状景真ニ貧窶ニ安逸スル者ノ如シト虽氏是レ
則チ人民ノ智識ノ缺之ト從属ノ性質アルノ結果タレ
ハ明々白々タリ而メ其人民ノ安逸トスル所モ亦真ノ
繁榮幸福ヲ含有スルニ非ス
人民ノ格別ニ欠乏トスル所ノ者ハ就中貨幣ナリ人民
實ニ通貨ヲ持セサルニ非スト虽モ當時其通貨ト云フ
ハ即チ現今ノ如ク重ニ紙幣ヨリ成立シ真正ノ價格毫
モナク又決シテ贖減モラルハ一無シ而メ其之
発行スル者ハ中央政府大名及ヒ平等ノ人民ナリイ
求衆人ノ領知マル如ク斯カル巨額ノ紙幣ハ目今ニ至
リ國債トナレテ其償却ノ負擔ナスト虽氏其天毫厘モ
償還セシテ

茲ニ又此紙幣ニ並ヒ小判貳分天保及錢ノ名ヲ有セ
ル金銀首銅及ヒ其他ノ金属ニテ鑄造セル者ノ貨幣
アノ此貨幣凡テニ在テ甚ク緊用ナラスト虽氏是レ流
通ニ在テ充分紙幣ノ偽價ヲ貸与スル真債ノ体面ヲ支
持スルハ明瞭ナリ
此等ノ貨幣中金小判ヲ所有スル者ハ多ク富裕ナル大
名ノ如キ上等社會及ヒ處々ノ儉約ヲ守ル農民或ハ為
換方等ノ僅々ニ在マリ一般人民ノ如キハ唯其名ヲ聞
知マルノミ又貳分金ハ小判ニ比セバ其数多シト虽氏
是レ亦一般ノ需用ニ供スルニハ高價ニ過ルヲ以テ爰
ニ巨額ヲナスニ至ル能ハザリキ故ニ一般人民ノ家
ノ貨幣トナラ者ハ尙分ノ銀貨ナリ此銀貨ハ夥多ノ天
保半銅造及ヒ小錢鑄ル時トメハ銅臺ヲ用ヒ共ニ日

本國貨幣ヲ組成

一千八百五十九年ノ比ニ此ノ金屬通貨ノ總額ハ何程
リシヤハ外人ニハ知ルヘカラズ多分其精細ニ望ミ
テハ何人ト云ハ決シテ之ヲ知ラサリシナラン然リト
云ハ其額ノ巨大ナラサルニ明ナリ何トナレハ日本ノ
墳坑ヨリ採取セリ金銀甚タ少量ニシテ然クモ此金銀
ハ多ク裝飾用ノ目的ニ浪費シ而シテ其海外ヨリ供給
ニ至テハ數百年來一モ之ヲ仰カサリシニ以テナリ故
ニ通貨ノ形ニテ金銀ノ巨多ナル儲積ハ存セント欲
ルモ豈得ヘケンヤ且ツ世上普子ク雜種紙幣ヲ要シ及
ヒ之ヲ用モシハ即チ明クニ斯カル儲積ヲ存セサリシ
ヲ証表セリ

大正政府ハ、民ノ工、不換紙幣ヲ負ハシメ又屢々農

民ヨリ其作、過半、蒙恩シ其負擔ノ過重ナル衆皆
勉勵セント欲スル情志ヲ有セス恐ラクハ人々自ラ繁
榮セントシテ怖ル、ニ至ルカ如キ税法ヲ用ヒシモ尚ホ
満足セズシテ外人ノ渡來セル數年前尙分銀ノ重量ヲ
減オスルニ其元價三分ノ二ヲ以テシ眞價ニ非スノ
尙分ノ銘ヲ帶ヒタル通貨トナセリ是ヨリ以前尙分銀
ハ其名ノ表スル如ク實ニ尙分ノ四割一ヲ值ヒセリ然
レモ政府ハ凡テ國內ノ銀ヲ專賣スルカ故ニ尙分ノ形
ニ製レタル銀ヲ我カ欲ス、價ヲ以テ發行スルヲ得ヘ
ク而シテ政府ハ其價ヨリ正シク三倍ノ高價ニ在テ發
行スルヲ望メリ如此キ習慣ノ當時ニ行ハレシ証例ノ
一千八百五十九年及ヒ一千八百六十年ノ比ニ茲ニ在尙
分ノ外ハノ多ク熟知セル事情ニ由テ之ヲ發見スルヲ

得... 通貨ヨリ他ノ形ニテ細工採セル銀ハ僅カ
ニ其重量ニ分ノ一時トメハ二分ノ一以下ヲ有セル者
一銀ヲ以テ買フヲ得タリ此咄々怪事ノ弁明如何ト
レハ或ル二三ノ銀工會社ニ於テ其工事ニ要スル銀ノ
如キハ政府毎ニ其元價ヲ以テ之ヲ賣与セテカ故
中央政府ノ規画經營スル所ハ諸侯ノ各其封内ニ於テ
スルト同一概ナリモ平民ハ諸侯ノ奴隸若クハ犧牲タ
ルヲ以テ其工業ニ於テ得ル所ノ利益ハ公然諸侯ノ龍
断ル所トナレリ治者ノ有セル金貨及ヒ具卑遜ナリ
工人ヨリ召致セン、欲スル裝飾品ハ自家ノ利ヲ計リ
皆其従前ノ價ニ据置ケリ然ルニ下等人民ニ向テ發行
セル通貨ハ無慈悲ニモ其元價三分ノ一ニ成折セリ小
判ハ寺西ノ位ヲ保シ銀鎖及ヒ銀管ハ皆其曰

フヨリ獨リ、分銀ニテハ其價三倍ヨリ銀貨 政府
ノ外ニ之ヲ得ルニ所ナク加アルニ頗ル其需トアルヲ以
テ人民ハ此類盜ノ處置ヲ忍ビレノミ
一千八百五十九年外人ノ始メテ渡來セルハ俄ノ人民
ノ手然此處置ヲ忍ビレヲ發見セリ然レ當時外人ノ新
ニノ且刺撃スヘキ思想ヲ發シテ此ニ牙ハクンバ蓋
レ此忍耐ハ今日迄繼續セシナラン何トナレハ世界廣
シト思ヒ如ク殖盛ヲ極メ苛虐ヲ尽シ而シテ全ク海非
スルヲナキ治者及ヒ如此ク陋劣ニ沉ミ只命ニ是
ヲ以テ其羈絆ニ附隨セル人民ハ只二十年前ノ愛ス
キ日本ヲ捨テ、他ニ之ヲ得ヘクヲサレハナリ
外人ハ亦ニ日本ニ來リ其周圍ニ在テ斯カル苛虐制法
ノ結スル目撃スト虽且自身ニ之ヲ免フルヲ得タリ

又外人にて日本ノ賤民ニ取リテハ幸ニ洋ノ此強奪
稅ヨリ元ルアリ且其ノ銀貨ハ之ヲ脱スルヲ得ス
政府ニ於テ弗ハ十分ノ價ヲ以テ授セシテ諾
分ナル價トハ其重量ハアル丈ケニ之ヲ通用セシム
ルノ義ナリ此事タル單ニ失錯(双方ニ於テ)發シ
ニ過ススト虽此亦家モ幸福ノ失錯ナリトナスニ至レ
リ蓋シ若シ日本ノ誤候ヲ賢明ナリシメハ決メ斯ル
危險ナル許諾ハ之ヲ為サザリシナラシテ恐ラク諸候ヲ
メ山ニ至ラシメシハ重ニ漏入セル外人ニ對シ豪然
意ヲ抱クノ感格及外人等ノ動作ヨリ發スル結果ニ
就キ深ク察セザルニ坐スルナラシ然レニ此等ノ結果
ハ頗ル驚怪ス一キ者アリ河トナレハ他ノ銀貨ハ蒙リ
シ獨洋ニ至テ此強奪稅ヲ免カレシハ一

事ノ中一變ノ萌芽トシテ潜伏セルアリ蓋シ一變
タル終ニ封建ノ組織ヲ破壊シ下等人民ノ為メニ權威
自治及富饒ニ達スヘキ進路ヲ開示セリ而メ爾來恐ラ
クハ彼等ハ其進路ヲ敢テ一歩モ退却セザルヘシ
小國貿易及之ヲ導引シ來レル外人等ノ獨立ナル功
作ハ恐ラクハ多少日本ノ民ヲメ其無知迷夢ノ裡ヨリ
振起セシメタリ此等ノ影響ハ頗ル薄弱遲鈍ナルヲ表
スト且此唯一種他ノカヲ養成スルニ向テハ發盛
キ而メ此ノ一種ノカナル者ハ洋銀ヲメ諸候等ノ不
ル貨幣ニ對メハ同等ニ普通平民ノ有セル貨幣ニ對メ
三倍ノ高價ヲ以テ通用スルヲ得セシメシニ根底
リ然リ而メ當時意ヲ以テ注ク者ナキノミナラス恐
ニハ今日ト虽モ一船ニハ認識セラシ

此等ノ陰然動作レ治者ノ抑制ヲ超逸シ次群衆ノ
中ニ發醇シ終ニ日嘗人民ノ受授セル通貨ノ内ニ其顯
家ヲ發セリ恐ラクハ凡テ政權ノ有忌世襲ノ鬭争ハ
外天ノ策畧ヨリ以後ニ起リタル變動ヲ養成スルニ於
テ家モ迅速ノ功ヲ奏セリ蓋シ此變動ハ普通信スレ所
ニ依ルハ日本國ヲメ封建ノ穢土ヨリ巍然トメ持テ
レメ日本人民ヲ責任アル政府ヲ以テ並木ニ作リタル
文明ニ進ム街道ノ頭リニ多置セリトナリ若シ直筆
ヲ以テ此ノ變遷ニ遭遇セシ時代ノ災來ヲ記セシメハ
人民終ニ數百年來ニ權利ヲ蹂躪シ加之無慈悲ニ強
奪シタル滔者ヨリ剥取スルニ至ルヘキ人身自由及ヒ
政事ノ権力ハ皆多ク失却ニ發スト虽氏然クモ自然法
ノ陰微ナル勢カニ由リ動作セル此一小原因ニ由ル

ノ外ナカレ

余輩ハ此後ニ變革ノ此聖感ナル威力ノ動作ヲ示サシ
ト欲ス且ツ自ラ信ス余輩ノ其威力ノ緊要ヲ過大ニ喋
々セハ又其威力ハ外國貿易ノ重要主義ナレバ然レバ
不肖ニ外國貿易ノミニ日本カ現時有タル富裕ノ多
若クハ其之ヲ得ルノ方畧ヲ歸セサルニ於テ蓋シ我カ
讀者ノ必ス首領スヘキヲ
余輩ハ恐ル余カ見解ノ茲ニ起リタル變動ヲ悲ミテノ
人及ヒ外國貿易ヲ嫌惡シ且ツ外人ヲ目ノ神國ニ礼ハ
セル者ト做ス人々ヲ満足セシメサルヲ然レバ真理ハ
終ニ勝ヲ制スレヲ確信シ且ツ余輩ノ心事ハ自ラ真
リ信スル所ヲ述ヘト欲スルニ外キサレハ余輩偏
見詭説欺騙ニ句テ敢テ寸分モ假貸セサレ且ツ

此等ノ誤謬ハ從前斯ナル問題ニ當リ獨リ
ル日本ノミナラスル外人中ニ於テモ数々道理ト
ニ引用セラレタル者ナレハナリ
如此ノ余輩カ記載ヲ繼續セント欲スルヲ以テ余輩ハ
初ニ世ヲ共ニスル日本若クハ外人ニ向テ此記載ノ上
ニ公卒ナル批評ヲ下サンヲ請求ス且ツ余輩ハ何
ヲ問ハス正シク余輩カ意見ニ反對セル高論ヲ聞カ
ンヲ約ス何トナレハ余輩ノ專一ノ目的ハ方今將ニ重
要ナル問題ヲ誘惑セントスル謬説及チ巧術ヲ務メテ
排除セントスルニ在ルヲ以テナリ且ツ此問題タル余
輩カ見ル所ヲ以テスレハ苟モ日本ヲ憂愛スル人ノ能
ク之ヲ論定シ得ヘクモエ、ノ日本ニ与フ一キ家モ明白
直正ニシ且チ基本トシテ論題ナレバナ

